

埼玉掃除に学ぶ会・埼玉便教会共催

「第156回茨城掃除に学ぶ会」被災地支援掃除のご報告

日時 平成27年10月4日(日) 午前6時30分八潮高校発～午後13時40分八潮高校着

活動場所 常総市石下総合体育館

参加者(埼玉便) 24名(男性16名・女性8名/教員4名・学生等14名・一般6名)

9月9日からの豪雨で茨城県常総市付近は甚大な被害を蒙りました。この度、茨城掃除に学ぶ会の塚越さんが、トイレ清掃を通しての被災地支援活動を企画して下さい、24名が埼玉からマイクロバスに乗って参加させていただきました。

【鬼怒川付近の様子】

常磐道を谷和原ICで降りて、国道294号線を北上し常総市付近に至ると、収穫期を迎えた稲が無惨にも横倒しになり、ガードレールまでも倒れている光景が目に入り込んできました。本来なら黄金色に輝いているはずの稲穂が、灰色になり光を失っている様に暗澹とします。決壊した鬼怒川の堤防はすぐ近くです。

【いまなお避難生活が続ける方々がいます】

体育館のフロアは段ボール等で仕切られ、その中でひっそりと生活されている方がいます。こちらにも出過ぎずに心を込めて清掃をさせていただきます。

【間接的支援も必要です】

この日もたくさんの支援ボランティアが常総市に集まってきたそうです。避難所のトイレ掃除をしたところで、被災した家屋の整理、土砂やガレキの撤去は進みません。誰にも気付かれないかもしれません。されど、誰かがやらねばならないことであり、必要なことでもあります。「埼玉からたくさんの高校生がバス

に乗ってやってきて、トイレを素手で磨き上げた上、何も語らずに帰って行った」ということにも、確かな意味があると信じます。



6:30	八潮高校発	12:00	昼食
7:30	体育館着	12:30	閉会式
8:15	開会式	12:45	体育館発
8:30	清掃	13:40	八潮高校着・解散



鬼怒川と筑波山



横倒しになった稲



避難所の体育館



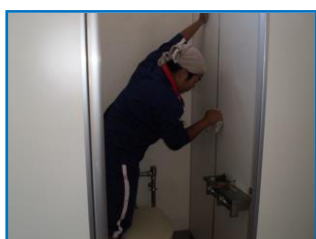
開会式



塚越代表世話人の挨拶



閉会式での感想発表



清掃の様子1



清掃の様子2



清掃の様子3



埼玉便の集合写真

「被災地支援清掃を終えて」

八潮高校 教諭 村田 陽

九月九日からの関東・東北豪雨で茨城県常総市付近は甚大な被害を蒙りました。被害の大きさを知り、何とか現地に駆けつけて支援をさせていただき、被災者を励ましたいと願っていましたところ、茨城掃除に学ぶ会の塚越さんが、トイレ清掃を通しての被災地支援活動を企画して下さい、この度、二十三名の仲間とともに参加させていただきました。

大里総合管理様のマイクロバスで八潮高校を出発したのは六時半でした。常磐道を谷和原ICで降りて、国道二九四号線を北上し常総市付近に至ると、収穫期を迎えた稲が無惨にも横倒しになり、ガードレールすら倒れている光景が目に見え込んできました。決壊した鬼怒川の堤防はすぐ近くにあるようです。その鬼怒川の橋を渡ると、間もなく今回の活動場所である石下総合体育館に到着しました。八潮高校から一時間弱の近さです。

石下総合体育館には、依然として避難してらっしゃる方が生活しています。体育館のフロアは段ボール等で仕切られ、その中で避難民がひっそりと生活しています。そんな様子を覗くことも申し訳ない気持ちでいっぱいでも不憫に思いましたが、その方々に清掃により間接支援ができるかもしれないことを思うと、やる気が湧き上がってきました。「埼玉からたくさんの高校生がバスに乗ってやってきて、トイレを素手で磨き上げた上、何も語らずに帰って行った」ということは、きっと被災された方々を励ますことに繋がると想ったのです。いや、たとえそれが被災された方々に知られずにいたとしても、トイレが確実にきれいになり、

自分たちの心も磨かれるのだから、それで十分とも思えてきました。

今回私は、八班という事で外トイレを担当させていただくことになりました。掃除開始前に利用したトイレが外トイレだったので、その激しい汚れ具合は分かっていました。現場到着後にリーダーさんから頼まれて、多目的トイレを本校三年生の宮本くんに教えながら担当することになりました。宮本くんは初めての本格的なトイレ掃除です。まず、床や壁の掃き掃除をしていきます。何匹も何匹もクモが出てきます。宮本くんは脚立に乗って蛍光灯とそのカバーを外してくれました。素直に率先してきれいにしようとしてくれるのでとても快く感じます。そしていよいよ、便器掃除に取りかかります。宮本くんの実施例を示して任せた後、私は便座とカバーを外して、それらを屋外で拭くことにしました。宮本くんは躊躇せずに便器と向き合い、黙々と磨き上げていきます。トイレの外は、晴天下で暑いくらいでした。よく絞ったタオルで拭き始めると、手垢がずいぶん付着していることに気付きました。そこでカネオンを少し含ませて磨いてみると、その部分で日光を受けて明らかに光り輝きました。何だか嬉しくなり、便座カバーの表側を端から少しずつ丁寧に光らせていきます。このペースを進めると、便座カバーと便座だけで一時間以上は要すると考えましたが、何か心地よく、磨き進める手を止めることができず進んでました。考えてみれば、この便座カバーは通常は上げられたままで顧みられることはなく、しかも表側は誰に見られることはありません。されどそれでもいいと思います。誰も見えないけど、今と同じくお天道様は見ている。誰にも知られないけど、私と天だけは知っている。そう想えてきたのでした。

順調に掃除は進み、洗面台やオムツ替え用の台、壁や床もきれいになっていきました。宮本くんはあの猛烈に汚れていた便器に見事に深い白色を甦らせてくれました。そして私の向き合った便座とカバーは宮本くんの手によって便器に再び据え付けられました。清掃開始から二時間あまり。開始前とは明らかに違う爽やかな空気がトイレに充ちていました。清々しい気持ちで私も満たされました。宮本くんありがとう。

清掃後は、塚越さんの依頼で駆けつけた女性陣がたくさんのおむすびを用意してくれました。日本を美しくする会の阿部さんも新鮮なキュウリとおいしい甘味噌をたくさん用意してくれました。とても美味しかったです。掃除の準備から段取りも全てお任せ。往復の道のりも全て大里総合管理の野老さんにお任せ。何もかもいただき放しの申し訳ない一日でした。ありがとうございます。